

榎崎 洋子(音楽学部音楽学)

『A Way a Lone : Writings on Toru Takemitsu』

武満徹の三回忌にあたる1998年にシドニー大学で「武満徹シンポジウム」が開かれました。本書は、その時の発表原稿のほか新たに書きおろし原稿を加えたものです。シンポジウムの企画者で薩摩琵琶研究者のヒュー・デ・フェランティ氏がシンポジウムの後ミシガン大学で教鞭をとることになり、武満を対象に研究しているアメリカの研究者から原稿を募りました。その頃、ロンドンでは武満の音楽を愛する演奏家、研究者によって「武満ソサエティ」が設立されて研究会や演奏会の活動を始めていました。結局、オーストラリアのほか、アメリカ、イギリス、さらにイタリア、日本から、日本伝統音楽研究者、現代音楽研究者、音楽理論家、作曲家、さらに武満の音楽を長年レコーディングしてきた音楽プロデューサー、という、地域の上でも専門分野の上でも多様な執筆者による論考を掲載することになりました。

(2002年11月 教官アーカイヴ展に寄せて)